



自衛隊栃木地方協力本部

「いちご一会とちぎ国体」に広報ブースを出展



自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 倉田 1 陸尉）は10月6日から10日までの間、栃木国体馬術競技会場において広報ブースを出展した。

栃木国体では6つの会場で、宇都宮駐屯地、北宇都宮駐屯地及び海上自衛隊横須賀地方隊所属の部隊等が、競技の運営支援や選手の安全確保等を実施した。大田原所は中央即応連隊が担当した馬術競技会場において、観戦者や競技参加者に対し広報活動を行った。

広報ブースには競技ボランティアとして参加していた近傍高校の生徒や、日本全国から集結した選手及びスタッフ等が訪れ、戦闘機をVRで体験するコーナーでは、女子高生がゴーグルを装着した友人をスマホで撮影する場面も見られた。また、アンケートに答える男子高生やポスター等の展示を興味深く見る人、「娘に見せよう」と言いながら採用パンフレットやチラシを手にする来場者の姿もあった。

試合会場では選手の競技が終わるたびに、中央即応連隊の隊員がグラウンドを整備したり障害物のバーを元に戻していたが、その様子を見ていた高校生ボランティアが思わず「自衛隊、バリ早ええ」と声を漏らす場面があった。「自衛隊さん、支援ありがとございます」「こんなことまでやるんですね、頑張ってください」と、隊員に声を掛ける人もいた。

栃木地本は「今後も地域の方々に自衛隊を身近に感じてもらうよう、活動していく」としている。



とちぎ国体銃剣道競技会に司会で協力



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶 1 陸佐）は10月8日から10日までの間、栃木県立壬生高等学校体育館で行われた第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」銃剣道競技会において司会進行を担当した。

これは開催地及び栃木県銃剣道連盟からの依頼によるものであり、総務課所属の佐々木 2 陸曹が第12特科隊の隊員と共に協力したものである。佐々木 2 曹は本番の約4か月前から団体担当者としてシナリオなどの調整を進め、6月のリハサル大会を経て本大会に臨んだ。

国体での銃剣道競技会は3年ぶりの開催となり、少年男子は各ブロック大会を勝ち抜いた13チーム、成年男子は47チームの選手が競技会に参加した。通常の銃剣道大会は会場内のコートに複数使用し、複数の試合が同時進行で行われるが、国体ではコートのみで試合が行われるため、選手たちは会場の視線を一身に浴びながら戦いに挑んでいた。佐々木 2 曹は「選手一人ひとりの緊張感がこちらまで伝わってくるようだった」と話していた。

会場では宇都宮駐屯地や北宇都宮駐屯地の隊員が競技の運営支援等に携わったり、国体選手として出場した隊員もいた。栃木県の結果は少年男子が優勝、成年男子が準優勝となり、「総合優勝」を勝ち取った。来場者からは「銃剣道を初めて見たが試合に引き込まれて楽しかった。観戦しながら徐々にルールが分かってきて飽きなかった」等の感想が聞かれた。

栃木地本は「今後も地域の方々に自衛隊を身近に感じてもらうよう、活動していく」としている。

